



TITLE:

京大広報 No. 467

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 467. 京大広報 1994, 467: 784-789

ISSUE DATE:

1994-05-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209168>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 467

京都大学広報委員会



大学院人間・環境学研究科における連携・協力に関する協定書の交換式

—関連記事本文785頁—

目 次

<大学の動き>

- 大学院人間・環境学研究科における連携・
協力に関する協定書の交換……………785
医療技術短期大学部名誉教授称号授与式……………785

<栄誉>

- 庄野達哉名誉教授が紫綬褒章を受章……………785

<紹介>

- 医学部附属病院救急部・集中治療部……………785

- 計報……………786
平成6年度創立記念行事音楽会の開催……………787
日誌……………787

<コラム>

- 砂漠からの蒸発……………光田 寧…788

<随想>

- 私のタンザニア紀行……………名誉教授 近藤良夫…789

<大学の動き>

大学院人間・環境学研究科における
連携・協力に関する協定書の交換

本学と京都国立博物館及び奈良国立文化財研究所は、それぞれの間で連携・協力に関する協定を締結し、平成6年4月26日（火）総長室において、井村裕夫総長と藤澤令夫京都国立博物館長及び田中 琢奈良国立文化財研究所長との間で、協定書の交換が行われた。

この協定は、今年度より文化財の保存・継承の重要性にかんがみ、大学院人間・環境学研究科と京都国立博物館及び奈良国立文化財研究所が、幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた研究者及び技術者の育成を行うとともに、相互の研究機能の充実を図ることを目的としたもので、それぞれの立場を尊重して連携・協力するものである。

具体的には、平成6年度予算で認められる予定の同研究科の文化・地域環境学専攻環境保全発展論講座東洋文化財保全研究指導（客員）分野に京都国立博物館及び奈良国立文化財研究所の研究者をそれぞれ兼任の教授又は助教授として迎え入れ、共同して研究を行うとともに、この分野の学生の教育及び研究指導を行うものである。

<紹介>

医学部附属病院救急部・集中治療部

本学医学部附属病院において、救急部は昭和42年6月に設置されていたが、独立しての業務は長年行われていなかった。その後、文部省の全国国立大学医学部附属病院における救急医療・集中治療を整備充実させる方針に沿って、昭和61年4月に集中治療部が設置されたことに伴い、本学においても救急部・集中治療部が一体として稼働することになった。

救急部及び集中治療部は、欧米では Department of Anesthesia and Emergency Medicine 及び Department of Anesthesia and Critical Care Medicine と呼称され、麻酔科の一部となっている。我が国でも、他大学では麻酔・救急医学教室あるいは麻酔・蘇生学教室と呼称されるように、救急医学及び集中治療医学は麻酔科の一部となってい

医療技術短期大学部
名誉教授称号授与式

4月7日（木）午前9時30分から、医療技術短期大学部名誉教授称号授与式が、本短期大学部会議室において挙行された。授与式は、称号授与のあと、「学長のあいさつ」があり午前9時40分に終了した。

称号を授与された方は次の4名である。

（敬称略）

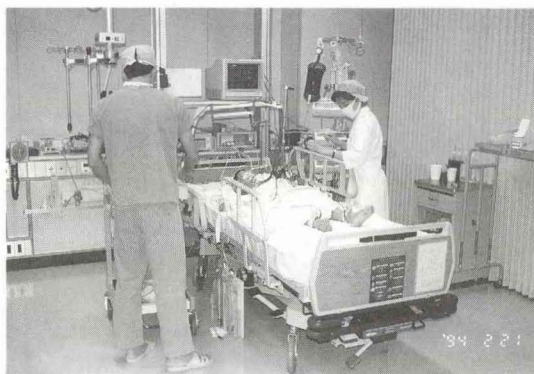
小 西 昭， 内 田 耕太郎
城 戸 國 利， 藤 原 哲 司

（医療技術短期大学部）

<荣誉>

庄野達哉名誉教授が
紫綬褒章を受章

庄野達哉名誉教授（元工学部教授、有機合成化学、Electro Organic Chemistry）に、我が国学術の向上発展のため顕著な功績を挙げたことにより、平成6年4月29日紫綬褒章が授与された。



治療・看護風景

る。本学でも救急部並びに集中治療部の実際の運営は麻酔科業務の一部となっている。

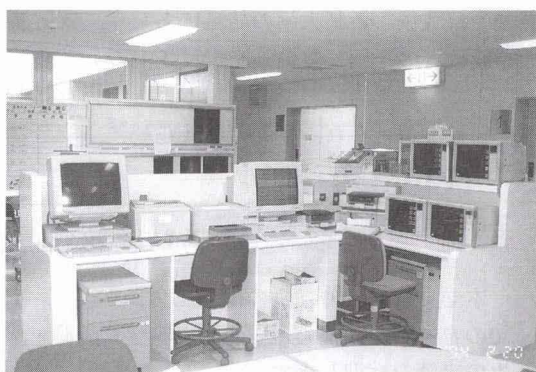
救急部・集中治療部の機構は、部長1名、助教授1名（救急部）、講師1名（集中治療部）、助手2名（集中治療部）となっており、これでは不十分なため、更に麻酔科助手1名を加えている。部長は、初代は小澤和恵第二外科教授（昭和61年4

月～平成5年3月), 2代は今村正之第一外科教授(平成5年4月～平成5年9月)であったが, 平成5年10月からは, 前述のとおり運営の実状に即し, 森 健次郎麻酔科教授が併任することになった。

救急部・集中治療部の施設は, 旧中央診療施設棟輸血部跡を改装して, 手術部に隣接して開設されたが, 平成5年1月に完成した新中央診療施設棟4階に移転した。病床数は, 救急部5床, 集中治療部5床であるが, 保険制度上, 集中治療加算は6床可能となった。さらに, 新中央診療施設棟1階に救急外来を設け, 救急車にて搬送される患者の初期治療に用いている。

救急部の職務は第三次救急であり, 市内各医療施設あるいは消防局救急隊から搬送されてくる各種疾患あるいは外傷患者を扱う。集中治療部の職務は, 最新の医療機器と濃厚な看護によって, 急性の重症患者を集中的かつ効率よく治療することである。本院では, 救急部・集中治療部が一体として運営されているため, 必要場合は救急患者を集中治療部に移して, 継続した治療を行っている。各ベッドサイドには, 血圧, 心拍, 呼吸等のバイタルサインを常時監視する装置及びその中央監視装置, 不整脈監視装置がある。治療機器としては, 人工呼吸器, 補助循環装置, 人工透析器などの生命維持装置を保有し, 必要ならば緊急の手術も可能な環境を整えている。また, 血液ガス分析装置, 血球計数器, 血液化学検査器などの各種検査機器を設置し, ベッドサイドモニター及び検査機器からの生体情報を直接オンラインでミニコンピュータに入力し, 呼吸・循環機能をはじめとする重要臓器の経時的な機能分析を可能としている。

救急部入院患者は, 交通外傷などの多発外傷,



中央監視装置

脳血管障害, 心筋梗塞, 各種薬物中毒, 溺水, 広範囲熱傷等の患者で, 年間100名以上である。集中治療部入室対象疾患は心臓・肝臓・食道・移植などの大手術後, 急性の呼吸・循環・腎・肝不全症, 重症感染症, 前述の救急疾患等多くの疾患が挙げられる。入室患者数は, 開設当初の年間約300名から年々増加しており, 平成5年の新中央診療施設棟移転後は年間約500名となっている。

医学の専門分化が進む現在, 救急患者の初期治療や複合臓器不全を呈する重症例に対し, 専門分野を異にする各診療科がいかにして協力するかが大きな課題となっている。救急部・集中治療部は, 従来の診療科の枠にとらわれることなく, 院内外の重症患者を集中的に治療するシステムを確立し, 新規の中央診療部門としての運営を軌道に乗せたことが, 開設以来8年の業績として挙げられる。研究面では, 生体侵襲とストレスホルモンの関係を中心に知見を深め, 数々の業績を挙げてきた。さらに, 今後は, 生体侵襲と免疫系の関係を研究し, 重症患者の全身管理と治療に役立てたいと考えている。

(医学部附属病院)

計 報

八木 三郎 名誉教授

本学名誉教授 八木三郎 先生は, 4月25日逝去された。享年81。

先生は, 昭和11年京都帝国大学理学部を卒業後, 同学部副手, 助手を経て, 第三高等学校講師に就任され, 同17年同校教授に昇任された。同25

年京都大学教授に就任され, 教養部において化学の講義を担当。同51年停年により退官され, 京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生の専門は物理化学であり, 化学反応の速度論的研究, コロイド溶液の光化学反応に関する研究, 分子結晶の構造と表面形態に関する研究において優れた成果を挙げられた。特に光化学反応の研究成果は写真化学の重要な基礎となった。

先生は戦後、新制大学の発足にあたり、教養部の一般教育の企画、整備、充実に多大の貢献をされた。また、学界においても日本写真学会西部支部支部長を務められ、学界の発展並びに、後進の指導に献身された。

これら一連の研究、教育活動、学術上の貢献に対し、昭和56年に日本写真学会功績賞、同61年勲三等旭日中綬章を受けられた。

ここに謹んで哀憶の意を表します。

(総合人間学部)

平成6年度創立記念行事音楽会の開催

本学では、6月18日の創立記念日を祝し、下記の音楽会を開催いたします。本学教職員・学生の来聴を歓迎します。

記

日 時 平成6年6月16日(木)
午後6時開演、午後8時頃終演予定
会 場 京都会館第二ホール
左京区岡崎(市バス・東山二条下車)
名 称 ザイラー ピアノ デュオ
演 奏 者 エルンスト・F・ザイラー
カズコ・M・ザイラー

プログラム

ブラームス：大学祝典序曲
ブラームス：ワルツOP. 39(全16曲)
リ ス ト：ルクレシアボルジアのテーマによるファンタジー
(チェルニー編曲)
一休 憩一
フ ン メ ル：チロルのテーマによる変奏曲
ブルックナー：カドゥリーユ(6つの小ダンス)
レ ー ガー：ワルツOP. 22—6
ラ フ：ボルシダの海女たち
(タランテラ) OP. 82—12
ピ ル ナ イ：古きウィーン(ワルツ)
ワーグナー：タンホイザー序曲
(ハンス・フォン・ビューロー編曲)

(演奏者略歴)

エルンスト・F・ザイラー

ドイツ・ミュンヘン生まれ。1952年ケルン音楽大学入学。1956年渡米してジュリアード音楽院入学。奨学生として、故エッブシュタイン教授、故ゴドニッツキー教授のもとに研鑽を積

む。ニューヨークでは、コロニークラブ主催ピアノ国際コンクール一等賞を獲得。1960年ジュリアード音楽院卒業。以来、ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学や国内の各大学のピアノ教授として後進の指導に当たり、数多くの若く優れたピアニストを養成してきている。

現在、京都市在住。京都府日吉町には古寺を移築したかやぶきの音楽堂を持つ。そこを拠点に、日本各地はもとより、ヨーロッパ、アメリカ、東南アジア等、世界各地で演奏活動、音楽教育、放送活動など幅広い活動を続ける。

ガズコ・M・ザイラー

京都に生まれる。1970年桐朋学園高等音楽科卒業後、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽院へ留学。在学中よりヨーロッパ各地において演奏活動を続ける。

E・ザイラーと結婚後は、ピアノデュオとしての活動を中心に、世界各地の演奏会に数多く出演。ロンドンのヴィグモアホール、ニューヨークのカーネギーリサイタルホールのほか、ドイツ、オーストリア、スイス、アメリカ等において演奏を重ね、ニューヨークタイムズ紙で絶賛されるなど、世界的な好評を得ている。

国内各地においても、デュオとしての幅広い活動に加えて、ソリストとしてのリサイタル、室内楽、オーケストラとの協演、そして、講演、テレビ、ラジオの出演、さらには執筆活動と、多彩な活動を続けている。

入場無料

備考：職員証又は学生証を持参して下さい。

定員は950名先着順とします。

(学生部)

日 誌

(1994年4月1日～4月30日)

4月1日 スイス連邦 ジュネーヴ大学 Luc Weber 学

長他12名来学、総長及び関係教官と懇談

